

I. 学校の概要

学校名	千葉市立こてはし台中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	0	9	22
生徒数	116	118	108	0	342	

II. 実践研究の概要

1. 主題 (テーマ)

基礎・基本の学力の向上を図る指導法の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年	1 年生	国語・数学・英語
国語	・学習の基礎・基本として取り組んでほしいという生徒や保護者の要望が強いため。	
数学	・小学校の学習の積み残しや中学校の学習内容につまずきを感じ、理解状況に差がしやすい教科であるため。	
英語	・中学校で学習する初めての教科として、着実に「基礎・基本の学力」の定着を図る必要があるため。	

(2) 年次計画

平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 生きる力を備えた生徒の育成 自信をもって自己表現できる指導法の工夫 ○ 仮 説 ＜実態把握と支援のあり方＞ 生徒一人一人に着目した実態の捉え方の内容と方法を明確にして、個々に応じた支援活動をすれば、学習のつまずきを解消し、自信を持って学習に取り組み、各教科における「自己表現力」の育成を図ることができるだろう。 ○ 研究内容・方法 新教育課程実施に伴い、本校独自の基礎基本の学習と自己表現力を見直し、授業改善を図る。 ＜全体指導計画と評価の作成＞ ＜全教科研究授業展開＞
--------	---

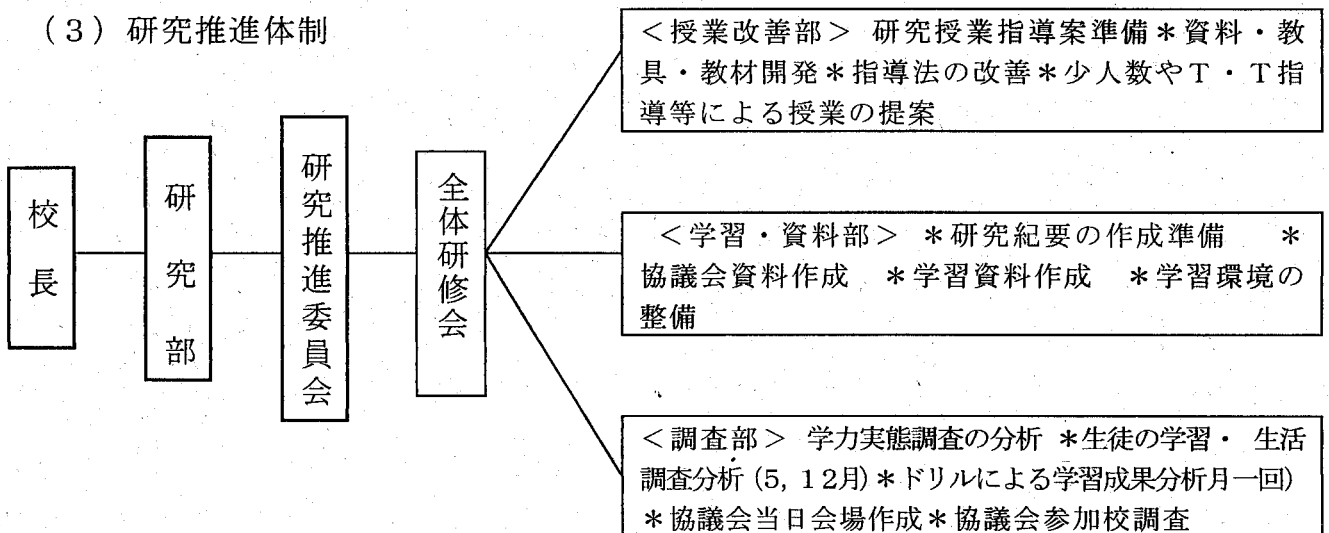
平成15年度

- テーマ
基礎・基本の学力の向上を図る指導法の工夫
- 仮説
＜実態把握と指導法＞
各教科の「基礎・基本の学力」に照らして生徒一人一人の実態を把握すれば、個に応じた指導法・指導形態の工夫が可能になるであろう。
- 研究内容・方法
「基礎・基本の学力」として新たに取り組むこととなり、各教科における基礎・基本の学力の定着を目指していくことが重要であると考えた。
 - ＜基礎・基本の学力の洗い出しと評価規準の見直し＞
 - ＜実態把握＞
 - ＜指導法の工夫＞
 - ＜全教科研究授業展開＞

平成16年度

- テーマ
基礎・基本の学力の向上を図る指導法の工夫
- 仮説
＜評価の活用＞
個に応じた評価を踏まえ、発展的・補足的な教材を生かした指導法・指導形態を工夫すれば、「基礎・基本の学力」が身に付くであろう。
- 研究内容・方法
生徒一人一人の学習の意欲を喚起しながら、指導法の工夫の実践を通して、研究テーマの核心に迫る。
 - ＜2年次の研究実践の継続と発展的実践研究＞
 - ＜評価の視点改善と活用＞
 - ・評価規準の再考
 - ・評価方法の再考
 - ＜発展的・補足的学習の改善＞
 - ・指導形態の改善
 - ・発展的・補足的な学習材の開発
 - ＜全教科研究授業展開＞

(3) 研究推進体制

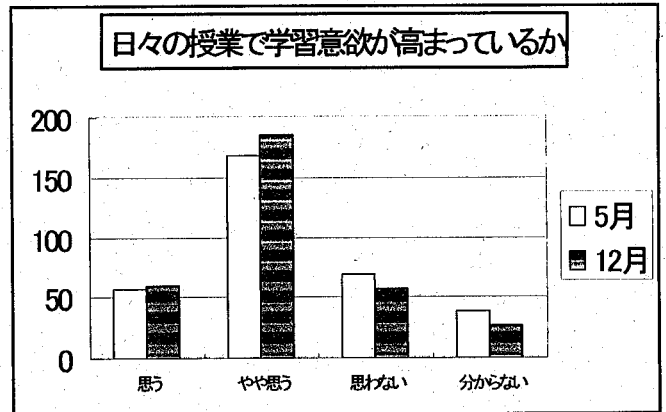
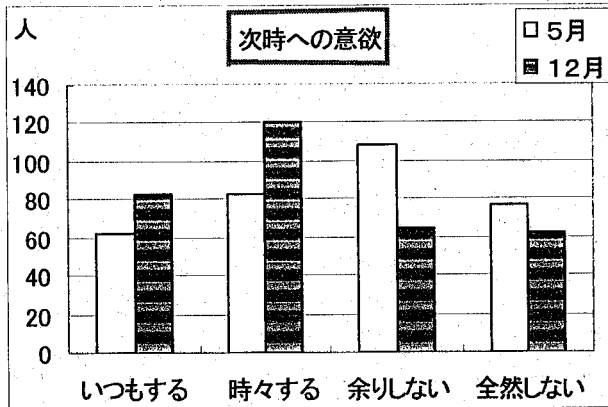


昨年度と比較して、報告会に向けて取り組むようにした。自分の教科の研究を主として、全職員で取り組むという意識を持ち、報告会を創り上げるようにした。

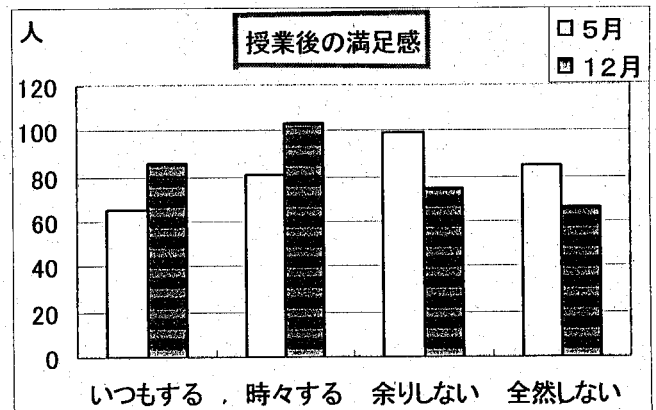
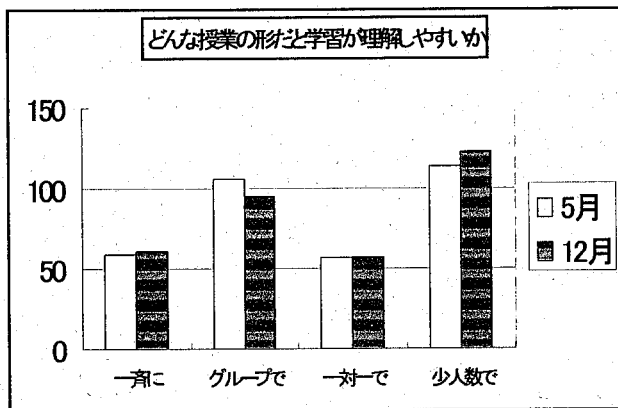
Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ① 教師自身が学習指導要領を基に、目標をより明確化することができた。
- ② 様々な指導の工夫をすることで、教師の指導体制が生徒に伝わり、生徒一人一人が活動できる場面が増えた。その結果、生徒の授業意欲が高揚している。

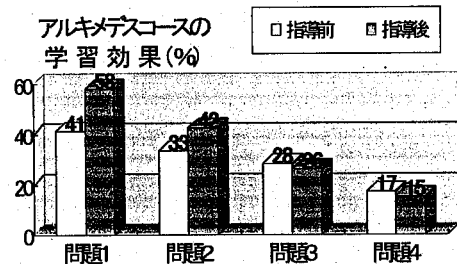
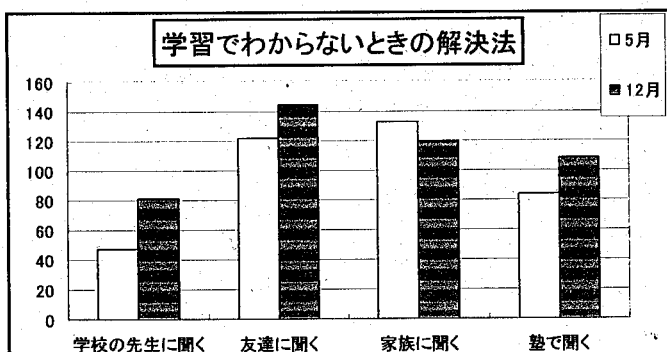


- ③ 学習のねらいと評価の一体化が進んだ分、授業が分かり易くなった。



- ④ 評価規準を作成して1時間の学習のねらいが明確になり、学習場面で個に応じた指導に生かすことができた。

<数学の授業から>



- ⑤ 「基礎・基本の学力」に応じた学習のねらいを明確にしたため、授業後の生徒の自己評価が円滑になった。

2. 今後の課題

- ① 基礎・基本の学力の定着を図るための評価の妥当性を更に検討していく。
- ② 個の学習が成立するための指導法に生かせる教材を開発していく。

IV. 学力把握のための学校の取り組みについて

生徒の学習状況の変容を捉えるための調査としての調査の目的・実施内容・時期について

- ・ 定期テスト（年3回） 6月， 11月， 2月
校内で各学期に応じて，学習の総括的評価として実施し，生徒個々の習熟度を見る。習熟度が低かった生徒については，補習を実施して習熟の一助とする。
- ・ 学力標準検査（NRT）（年1回） 教研式学力テスト
その学年の学習内容をどれだけ習熟しているか，学年始め又は年度末に実施する。結果を分析して，教科ごとの習熟の程度を把握する。
- ・ 学校教育目標達成度評価 5月， 12月
学校教育目標がどのように具現化されているかを把握し，意識や実践がどのように伸びてきたかを把握して，次年度の教育に生かしていく。
- ・ 学習と生活のアンケート 5月， 12月
家庭での過ごし方や学習の満足感等について，生徒個々の評価を捉え，研究の成果を見る。
- ・ 授業アンケート 5月， 12月， 3月
各学期毎に，授業中の取り組みについて（発言・発表・質問等）生徒個々に評価をさせ，教科の指導法の反省や生徒の意欲活性化を図る。

V. フロンティアスクールとしての研究成果の普及について

(1) 報告会開催日開催実績 平成15年10月29日
千葉市内小・中学校

(2) 研究成果の普及活動成果

- ① 少人数学習における生徒の活発な授業内容により，学習の効率化を啓発できた。
- ② 習熟度別学習により，下位生徒への学習の個別化を図れることを数学と英語の学習を通して実践した。
- ③ 指導者一人で行う習熟度別指導は，指導計画を練り，学習資料や評価カードの工夫が必要不可欠であることが分かった。
- ④ 近隣の小学校の先生方にも参観して頂き，小・中学校の連携の必要性を理解して頂いた。
- ⑤ 報告会を実施したことにより，市内だけでなく，他県にも学力向上フロンティアの取り組みを紹介できた。

【新機構・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無